

湯河原ロータリークラブ



WEEKLY REPORT

ロータリーを实践し
みんなに豊かな人生を

第 2527回 例会
平成26年2月21日(金)
天候 曇り
合唱 我が生業
四つのテスト

会長 渡辺 久恭

幹事 石田 浩二

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原

TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

ガバナー事務所より会長・幹事あてに「ロータリー創立記念日にむけて」のメッセージと言う案内が届いております。内容は、1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生し、国際ロータリーでは2月23日をロータリーの創立記念日と決めました。本年はこの2月23日を記念して、ロータリーの認知度を向上すべく、日本34地区でこの日に一斉に発信することとなりました。当地区ではポリオのない世界実現に向け、ポリオ撲滅推進キャンペーンを1年間通して実践していきます。又、このキャンペーンを通して、一般の方々にもロータリーを知ってもらう機会としてとらえ、実践していきます。そしてその結果として公共イメージと認知度の向上につながればと思っております。つきましては、各クラブに於いて2月17日~23日までの週の例会の会長スピーチの中で、この創立記念日について触れていただきたく、お願い申し上げます。ロータリー・ジャパンの「ロータリーの歩み」の1に“ロータリーの誕生”10“ポリオとの戦いの日々”についての記載があります。是非、ロータリーができた頃に思いを馳せて、100年以上続いたロータリーやポリオ撲滅のためにロータリーが活躍してきた日々を見つめ直したり、ロータリーを考える一日として頂けたら幸甚です。当地区の2月23日に因んでの各クラブへのお願いです。宜しく、お願い致します。

幹事報告

ガバナーより

1. 2014年地区協議会開催のご案内

日時：平成26年4月20日(日)

登録12:00~13:00 協議会 13:00 点鐘

場所：東海大学 湘南キャンパス

登録料：1名8,000円

登録締切：3月17日

出席義務者の会員には、通知をお配りしますので、予定に入れておいて下さい。

立山ロータリークラブより

25周年記念プロジェクトに過分なご寄付を賜りありがとうございました。立山・室堂外来植物除去作業の自然保護活動に使わせていただきますと、お礼状が届きました。

高松南ロータリークラブより

高松南RCの例会にご参加を！

今年は、瀬戸内海国立公園指定80周年であり、高松国際ピアノコンクールなど、多くのイベントが高松で開催されます。この機会に高松へご来訪され、私達のクラブ例会にご参加いただき、例会前後に瀬戸内海の島々や、栗林公園・屋島、讃岐うどん等、高松の名所を観光されたいかがでしよう。皆様のお越しをクラブメンバー全員で暖かく歓迎しますのでよろしくようお願い申し上げます。

出席報告	ゲスト0名 ビジター 0名	会員 24名
	欠席1名(免除者0名)	出席率 95.83%
	前回の修正出席率 100.00%	前々回の修正出席率 95.65%

スマイルBOX

土屋一弘君

伊豆大島へ見舞いに行ってきました。

高知尾朝行君・杉山茂久君

杉山会員にお世話になり車を購入しました。

神谷一博君・深澤昌光君

「梅の宴」会場で足湯を提供しております。初日は

100名程入って頂きました。本日は午前中で

50名以上入って頂いております。

全員でスマイル

2月23日のロータリークラブ創立記念日を祝して

卓話

佐藤泰文君

リニア新幹線の今

超伝導磁石で浮上して最高時速500kmで東京、名古屋間を40分で疾走するリニア新幹線がいよいよ14年度に工事が始まります。リニア計画が始まったのは、国鉄時代東海道新幹線の開業する2年前に始まり、宮崎県の日向灘の海岸線に沿ったところに実験線を建設しましたが、新幹線開業の年から国鉄は赤字に転落し、その後は債務が膨れあがりリニア開発に余裕がなくなり、JR東海に引き継がれました。

JR東海の葛西会長が昨年、山梨のリニア実験センターで開かれた新車両「L0型」の試験走行の出発式で「リニアは世界の交通技術史上のエポックになる」と強く断言し、JR東海は27年の品川・名古屋間開業、45年の新大阪延伸をめざし、東名阪の三大都市圏が通勤圏になると太田国交大臣も期待する発言をしています。

鉄道運輸収入の9割を稼ぐ東海道新幹線は東京オリンピック開催の年に開業、以来50年になり老朽化が進み、1987年のJR東海発足後だけで約5兆円を投じてきました。正月には有楽町駅付近で発生した火災で新幹線が全面運休に追い込まれ、代替えがきかない弱点が浮き彫りになりました。

JR東海は分割民営化で発足した1987年にリニア対策本部を設置、葛西社長就任後の97年には山梨の実験線で走行試験を始め、国に「東海沖大地震など災害発生時の東海道新幹線のバイパスとしてリニア整備は急務」と訴え続けましたが、その前に「整備新幹線」計画があり、政治絡みで既に決まっている他の路線を差し置いて、リニアを優先は出来ないと、今に至っています。

田中角栄氏が首相だった73年に、全国新幹線鉄道整備法に基づき北海道、東北、北陸、九州鹿児島、長崎の5路線の計画を決定し、政治主導で決まった優先順位は今なお堅く守られています。JR東海はリニア建設計画について、国の整備では待てなくて自社で背負う方向で決定しました。建設費は名古屋迄で5兆4千億円、大阪まで延伸すると総額9兆円と試算しています。営業利益の20年分にあたります。

鉄道債務は長期で行います。利子が嵩み国鉄のような債務超過で実質の破綻に至った経緯を踏まえ、まずは名古屋まで開業し体力を蓄えた上で大阪まで延伸する考えを打ち出す計画に至り、葛西会長は自民党の会合を回り、リニア建設予定地にかかる不動産取得税などを従来の整備新幹線と同様に非課税にするよう要望し、非課税措置は14年度税制改正大綱に盛り込まれました。

リニアの超伝導とは、金属や合金でできた電線やコイルをマイナス269℃に冷やすと、電流が極めて流れやすい現象になり、この状態のコイルに電気を流すと強力な電磁石になり、車両に搭載した超伝導磁石と軌道側に設置したコイルの相互作用で浮上力と推進力を生み出しますが、実験走行に漕ぎ着けるまでには、10年を要しました。

JR東海は日本で中々進まぬリニア構想ですが、インフラ輸出を成長戦略の柱に据える安倍首相に呼応され、アメリカでの売り込みを目指しています。リニア技術の輸出を目指す背景は人口減少などで先細る国内市場への危機感もあります。ニューヨーク・ワシントン間、ダラス・ヒューストン間など落とせるか、その成否は国内のリニア整備の行方が左右されるとみられています。